

エコ農業とちぎ通信

NO.1
2015.9 発行

み～んなに宣言
してほし～まる♪



「エコ農業とちぎ」 って何？

4つの課題解決に向け、個々の農業者ができることから活動を選択し、実践していくことを推進しています。

地球温暖化の防止

- ・自然エネルギーの利用
- ・稲わらすき込み時期の転換 など



環境負荷の軽減

- ・減農薬・減化学肥料栽培
- ・地域資源による堆肥の施用 など



生物多様性の維持・向上

- ・緑のあぜづくり
- ・土水路の維持 など



安心・安全・信頼性の確保

- ・農薬の適正な使用・管理
- ・廃棄物の適正な処理 など



エコ農業とちぎ宣言制度を始めました！

農業者は
実践宣言



お互いを認識し
高めあう関係づくり

消費者等は
実践宣言者を
応援宣言



“エコ農業とちぎ”を実践する農業者とそれを応援する消費者等の方々に、エコ農業とちぎを「実践する」「応援する」と自ら宣言していただきます。

宣言者同士の関係づくりをすすめ、「とちぎの農と自然を守り育てよう」という考えを県民全体に広げます！

9月18日(金)よりキャンペーンを実施！

参加店舗において、「実践宣言」をしている農業者が出荷した農産物に応募シールが貼ってあります。

シールを10枚集めて応募すると、抽選で50名様に参加店舗の季節の農産物をプレゼント！

応募と併せて、応援宣言をお願いします。

応募締切：11月18日(水)

※詳しくは応募用紙またはホームページをご覧ください。



実践宣言書



応援宣言書

宣言していただいた皆様には、「宣言書」を進呈！
※詳しくはパンフレット又はホームページをご覧ください。



実践宣言者紹介



旬の野菜・爽菜農園

(市貝町)



なすの有機栽培



鶏ふんは肥料にして循環

- ・2000年から有機農業をスタートし、水稻・小麦・大豆、野菜類約70品目の生産と、鶏の飼育を行っています。
- ・作物の残さや地域の食品残さ等を鶏の餌にし、鶏ふんは稲わらや籾殻と混ぜて発酵させ、肥料として施用するなど、循環型の有機農業を実践しています。
- ・消費者の理解を促進するため、田植えや稲刈りの体験、生き物調査等のイベント等も開催しています。

農業生産法人サンファーム・オオヤマ

(栃木市)



トマト栽培



ヒートポンプ

- ・ヒートポンプや二重カーテンを利用した最新鋭のハウスで、多数の循環扇を設置し、ハウス内の温度を均一にすることで、化石燃料の使用削減につなげています。
- ・微生物資材等を利用することで、化学農業のみに頼らない栽培管理を行っています。
- ・地域の牛ふん等の堆肥を利用して土づくりを行い、地域内の資源循環に努めています。

ベジファームおかざき(岡崎清治)

(さくら市)



生産された農産物

- ・米ぬかなどの有機質100%の肥料やボカシ肥を使用して土づくりを行い、甘みや旨みにこだわって有機栽培により年間50品目以上の西洋野菜を栽培しています。
- ・野菜をたくさん食べて、体は健康に、心は美しく!!と「菜・食・健・美」を提案しています。
- ・「地産地商」として地元のレストランへの提案型販売や道の駅での販売を行っています。

高松農園(高松勝雄)

(那須塩原市)



味恋トマト



木質ペレット暖房機



木質ペレット

- ・木質ペレットを燃料とする温風暖房機を使用し、化石燃料の使用を削減しています。
- ・循環扇を設置し、温室内の温度ムラを無くすことで、暖房効率の向上を図っています。
- ・環境に配慮しながら、高糖度トマト生産に努め、「味恋トマト」のブランド化を進めています。

イベント・ピックアップ! ~那須疏水&田園ウォーク in 三区が開催されました~

那須塩原市の三区町環境保全隊とNPO法人三区町地域資源・環境保全会では、地域の美しい農村環境と資源を地域の方々に知ってもらい、地域みんなの力で次世代に継承することを啓発するため、7月4日に通算6回目となる田園ウォークを開催しました。

今回は、あいにくの雨模様でしたが、参加者全員が完歩しました。

ゴールでは子供達の太鼓の生演奏に元気をもらい、地域で生産された「特別栽培米」のおにぎりに舌鼓を打ちました。



地域の農村環境を再発見



応援宣言をいただきました



子供達が太鼓でお出迎え